

令和3年度第4回生涯学習推進協議会  
会議要旨

日 時：令和3年12月24日（金）午後3時から  
場 所：305会議室

1 開会

会長あいさつ

2 議事

(1) 第3次京田辺市生涯学習推進基本計画（素案）に対する市民意見について

(事務局) 【資料1について説明】

(委員) 「計画の実施段階で参考とする」とあるが、実施段階とはどのような方法で実施することなのか。

(事務局) 市の各部局において、本計画の各施策に基づき、それぞれの担当課が実施していくことになる。

(委員) 本計画の趣旨や各施策の内容については、それを実施する担当部局は理解できているのか。

(事務局) 本計画の内容につきましては、委員の意見をもとに案を作成し、市の各部局の副部長級で組織される生涯学習推進幹事会及び部長級で組織される生涯学習推進本部に確定しながら進めておりますので、実施にあたっても担当課において本計画の趣旨等は周知できている。

(委員) 生涯学習推進協力員に関する施策についてはどの担当課が行うのか。

(事務局) 生涯学習推進協力員については、社会教育課となる。

(委員) 学習情報の提供に関しては、広報誌、出前講座、ICTの活用とあるが、過去、本市ではあまりできていなかったように思われる。目に付きやすい新たな情報発信の方法が必要だと思う。

(事務局) 生涯学習情報誌である「生涯学習だより」のリニューアルを検討している。スマートフォン画面などでも見やすくするためサイズをA4にコンパクトにし、発行回数を増加する予定。

(委員) 分かりやすさと手短かに伝える便利さについてしっかり検討してほしい。

(2) 第3次京田辺市生涯学習推進基本計画（素案）に係る教育委員の意見等について

(事務局) 【資料2、資料3について説明】

(委員) 資料3下の段「市民活動団体や企業、大学等との連携」の修正後の説明では「多様な主体が連携」となっているが、これでは市を除く他の主体同士のみが連携するという意味に読み取られてしまうのではないか。「多様な主体との連携」とした方がよいのではないか。

- (事務局) 趣旨としては、市も含めた多様な主体がそれぞれ連携を図りながら計画を進めることなので、わかりやすく「多様な主体との連携」に修正する。
- (委員) 「市民活動団体や企業、大学等との連携」については、具体的にはどのようなものか。
- (事務局) 具体例で言うと、活動内容はあるが、高齢化などで会員が少ない団体と、会員数が多く新たな活動を求める団体同士の協力など、それぞれの強み弱みを活かした連携ができればよいと考えている。
- (委員) 現在、ボランティアグループとそれに協力できる学生を紹介するという、調整を行っているが、このように、団体同士の主体的な連携も可能だが、ただ、その間に入るコーディネートの役割が必要となる。その役割は市も担わないといけないと思う。
- (委員) その件は、大学など学生の自主的な活動だと思うが、本計画は京田辺市が何をするのかを決めるための基本計画なので、団体同士の連携のためには、本計画に基づいて市がコーディネートを行い、細部については団体同士の主体的な活動に任せるのがよいと思う。市が全てを行うのではなく、市民の自主的な活動は、それはそれで進んでいくと思う。
- (事務局) コーディネート機能については、P 2 3の基本目標 3 (3)「①市民の相互の学び合いの促進」において、コーディネーター等の支援体制を整備しますと掲載しており、この中で具体的な方法については検討する。
- (委員) 現在、自分が関わる団体も高齢化が進んでいる。活動場所となっている中央公民館の職員が調整してくれて、若年層が多い別のグループと交流を行った。公民館に限らず、体育館など他の施設でも、それぞれの団体同士をつなげるコーディネートを進めて欲しい。
- (委員) 資料4のP 4人口の推移のグラフについて年齢別内訳の合計が合っていないので確認すべきではないか。
- (事務局) 年齢別内訳については年齢不詳を除いた数値になっており、合計は年齢不詳も含んでいるため、合わなくなっている。内訳と合計が同じとなるように記載を改める。
- 【他に意見無し】**
- (会長) 過去の協議会において様々な意見が出たが、それらは本計画にほぼ取り入れられていると思う。本日の意見について一部修正したものを加えて本計画を我々の答申とすることでよいか。
- 【全員異議なし】**
- (会長) これで答申がまとまった。本年度の我々の役割はほぼ終わりになったと思う。